

## 平成 22 年度思春期精神保健ネットワーク会議報告資料

### 1 平成 22 年度活動報告

思春期精神保健に関連する事業内容と活動実績等がありましたらご記入ください。

平成 22～23 年度は、従来からの遊戯療法、認知行動療法（病棟内内観療法など）、作業療法に加え、各ピア・サポート活動を総括する目的から日本心身医療研究会を発足した。成長したサポーター、職員による明るく楽しい医療、福祉を実践し、現在は 256 種類の療法に細分化されつつある。

○診療・相談実績：平成 22 年度の 0～20 代の外来初診者数は 192 人。内、入院治療を受けた患者は、103 人。メール相談は約 50 件。また、以前から琴似中学の校医、西区要保護児童対策地域協議会の委員活動などを通し、心の健康、虐待予防などの支援を継続している。

○院内学校・登校支援：不登校の要因のひとつである学力低下を防ぐため、古くから医大生による学習支援を実施（現在は週 4 回）。22 年度の院内学校参加述べ人数は 52 人、毎平均 5 人の参加。また、家族、学校と連携を図り、病院から職員が送迎する登校支援も実施している。

○主な講演・学会発表など：講演は、第 29 回日本思春期学会（小樽）、千歳北翔高校、池上学院高等学校、国立日高青少年自然の家など。学会発表は、第 33 日本内観学会（長崎県）で 3 題、第 13 回日本内観医学会（富山県）で 1 題、第 9 回日本ピア・サポート学会（山形県）で 2 題など。

○その他、思春期問題に関する地域貢献活動：当院主催で第 13 回「思春期の心の講演会・相談会」（H22.6.12.札幌市教育文化会館、252 名参加）、第 5 回北海道アルコール・薬物依存予防、早期発見、解決市民フォーラム（H22.11.13.札幌市教育文化会館、236 名参加）などを無料開催。

2 軽度知的障害及び境界レベルの知的水準と疑われる子どもに対する対応について各機関で軽度知的障害または境界レベルの知的水準と疑われる子どもへの対応で、困難を感じるがありましたらご記入ください。また、そのような子どもへの対応方法で工夫しているがありましたらご記入ください。

不登校、家庭内暴力、ひきこもり、アルコール・薬物依存症などの治療の際、背景に軽度精神遅滞または境界レベル知能が伺われることは多々ある。そのような患者に対し、当院では個人のレベルに応じた疾患教育、認知行動療法を実践している。

治療に対する同意と理解が困難であり、拒否・抵抗の強い患者には、①言語以外の表現方法を用いる。具体的には箱庭・絵画などの遊戯療法、食器洗い・洗濯などの生活療法、書道・音楽などの芸術療法、小弓道・マルチダーツなどの運動療法などが有効である。②認知行動療法（病棟内内観療法）を始めとする心理療法は、自室でのゆったりから始め、徐々に面接会数を増やすなどの工夫を行う。③更に、興奮、暴力などを伴う患者には、上記療法で気分転換を図りつつ、親が自らの養育を反省し子に詫げるなど、親子同時内観（家族療法）で関係を修復し、絆を深める。

人権を考慮しつつ、感情、思考などの偏りの自制性を促し、根気良く支援する。

以上の①言語以外のピア・サポート、②柔軟な段階的認知行動療法、③家族療法と根気強い支援、などを通し、得意な遊びやスポーツなど、生きがいのある作業療法、建設的目標に気付かせる。個々の長所を伸ばし、発展させるような関わりが、復学や就労支援施設、保護的作業所などでの就労、社会復帰を可能とする。